



第 23 号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2010 年 11 月 11 日

## 新たな宣教師のために

親愛なる兄弟会員の皆さん、

ポーランドのチェストホーヴァより心からのあいさつを送ります。

3 年近く前、第 26 回総会は各管区に次のように求めました。「宣教の精神を促し、総長には「*missio ad gentes*」のために人材を寛大に提供し、信徒（協働者）や家庭からも宣教師の召命を促進する。」（49、日本語版：福音化の緊急性 27）総会のこの呼びかけにこれまでに応えてくれた 43 の管区に感謝します。ベトナムは、この 3 年間に 29 人の宣教師を送ってくれた、最も寛大な管区です。また、2010 年に、若いアフリカ - マダガスカル管区は、受け入れた宣教師よりも多くの宣教師を初めて送り出しました。

私は何度も自問してきました。ある教会、あるいは管区が、普遍教会の必要に応じてより多くの宣教師を送り出すことをやめるならどうなるだろう、と。たしかに深刻な結果があるにちがいありません。教会は成長しなくなるでしょう。自らの必要性だけに目を向け、内向きになることは、カトリック性（普遍性）を失うことにつながり、宣教の道を歩まなくなり、その過程で自らの信仰の成長を危険にさらすのです。普遍教会の必要性に自らを閉ざすことによって、自らの挑戦に立ち向かう勇気も失います。

ラテン・アメリカでは、「私たちの貧しさの中から分け与える」ことが多くの実りをもたらすことを人々は発見しました。それは、自らの地域での福音宣教においてさえそうなのです。アジアとアフリカは、遠くから来た宣教師たちのおかげで最近受け取った信仰は、分かち合われるべき賜物であると確信しています。ヨーロッパのいくつかの管区の姿勢はたいへん意義深いものです。召命の激減と会員の高齢化にもかかわらず、寛大にも数少ない若い会員を宣教地へ赴かせています。これは教会の感覚です（会憲第 13 条）。その上、40 億人もキリスト者でない人々がいると思うだけで、私たちは落ち着いてはいられません！



福者ミカエル・ルア帰天 100 周年を祝いながら、ドン・ボスコに忠実であるとはどういうことか、私たちはドン・ルアから学びたいと思います。総長としての 22 年の奉仕の間、ドン・ルアは 31 回の派遣をもって 1465 名の宣教師会員を、アメリカ大陸、アフリカ、アジアの開かれたばかりの多くの宣教地に派遣しました。ドン・ルアは、毎年 1 月のボレッティーノ・サレジャーノで宣教地の新たな展開について協力者たちと分かち合い、始まろうとするその年の大胆な計画実現のために支援を求めました。ルア神父に倣い、今年は、第 141 回宣教師派遣の裏りと、2010 年 7 月に総長によってあらためて打ち出された今日のサレジオ会宣教の緊急な必要性について、皆さんに紹介したいと思います。

毎月 11 日に、私たちは宣教師たちのため、また新たな宣教の召命のために祈ります。

サレジオ会召命の中の宣教師召命の識別を助けるため、福音を知らない人々へ遣わされる宣教師たちのたどる歩み、その諸段階をここにあげます。

1. 初期養成において宣教に関する最新の情報と養成がなければ、新たな宣教師の召命は期待できません。
2. この歩み全体は、総長にあてた願書をもって始まります。言うまでもなく、願書は会員の最初の識別に基づいて出されるものです。
3. 第一に、宣教召命についてよく識別することが大切です。総長にあてた願書が提出された後、候補者の長上は、識別の過程において、規範に基づいて本人を助けるよう求められます。支部、管区、宣教部門の 3 つのレベルの間のよい協力関係の鍵となるのは識別です。何よりも、養成担当者たちとの相談の上での管区長と管区評議会の見解は、非常に大切です。